

研究・調査報告書

報告書番号	担当
96	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名（原題／訳）	
Alcohol, body weight, and weight gain in middle-aged men. 壮年男性におけるアルコール、体重、体重増加	
執筆者	
Wannamethee SG, Shaper AG.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Am J Clin Nutr. 2003 May;77(5):1312-7.	
キーワード	
多量飲酒 体重増加 追跡調査	
要 旨	
<p>常用飲酒が体重増加に直接効果を有し、肥満の危険因子となるのかは明らかにされていない。そこで、飲酒と体重との関連および飲酒と体重増加との関連を検討するため、イギリスの24都市の一般医に登録されている40-59歳の非糖尿病である男性7,608名を対象に5年間の追跡調査を行った。追跡調査では郵送による飲酒と体重に関する自記式質問紙調査を行い、6,832名の回答が得られた。ベースライン調査の結果、常用飲酒者では酒量が増えるに従い平均BMIおよび高BMI者（BMI28以上: BMI5分位で最も高い階級）の頻度が多変量調整後も有意に高いことが明らかとなった。アルコールの種類および組み合わせを考慮した分析においても同様の傾向が示された。5年後の追跡調査の結果、多量飲酒であり続けたものおよび新たに多量飲酒となったもの（一日30g以上のエタノール摂取である超多量飲酒を含む）はBMI水準と高BMI者頻度が最も高かった。ベースライン調査時に多量飲酒で追跡期間中に飲酒量を減じた者の体重変動に関しては、非飲酒者・機会飲酒者とは有意な差を認めなかったが、多量飲酒継続者および新規多量飲酒者と比較すると体重減少者が多く、体重増加者および平均増加体重が少なかった。これらのことから、一日30g以上の多量飲酒はアルコールの種類にかかわらず体重増加と肥満に直接関連することが明らかになった。</p>	